

スウェーデン

イエーテボリ大学
留学に関する報告

高知大学
人文学部
国際社会コミュニケーション学科

滞在期間 2011年9月～2012年7月

○滞在期間

2011年9月～2012年7月

○滞在场所

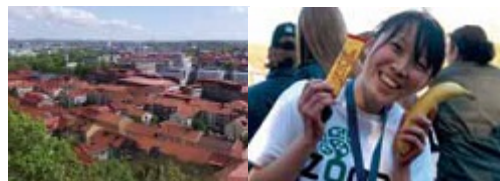
イエーテボリ大学（スウェーデン）

○感想

スウェーデンは北欧の国の一つで、国土の半分を水と緑に囲まれる自然豊かな国です。イエーテボリ大学はスウェーデンの第2の都市であるイエーテボリという港町にあります。大学には8つの学部があり、約40,000人の学生が学んでいます。学部によってキャンパスは異なりますが、多くのキャンパスが街中に位置しており、非常に便利です。



スウェーデンの大学は、日本と授業のシステムが異なり、1つの授業が7.5ポイントで1年間に8つの授業（60ポイント）を履修します。授業は



週2、3回で1～2ヶ月の短期間で終了します。私はスウェーデンの教育制度、ジェンダーと教育、成人教育、日本語教育実習など教育学部の授業を中心に履修しました。授業ではディスカッションやプレゼンテーションが行われ、多くの授業が学生主体でした。講義形式の授業でも「日本はどうか？」「これについてどう思う？」と意見を求められる場面が多くありました。指定された文献を読み、ディスカッションやプレゼンテーションをするなど、インプットするだけでなくアウトプットすることに重きを置いていると感じました。最初は自分の意見を上手く伝えられず、辛いときもありましたが、友人と一緒に食事をしたり、寮でパーティーをしたりと楽しみながら前向きに勉強に取り組みました。メリハリをつけて学び、楽しむことが大切であると感じました。

イエーテボリ大学への留学で学んだことは”教育＝共育”であるということと”コミュニケーションの重要性”です。現地の学校訪問や日本人補習校でのボランティア、大学の授業で、教育とは教師が生徒を教え育てるものではなく、教師と生徒が共に育っていくものであ

ると学びました。またスウェーデンの「fika（フィーカ）」という文化からコミュニケーションの重要性に気づきました。fika とは同僚や友人、家族と軽食をとりながらおしゃべりしよう、というものです。日々の何気ないコミュニケーションの中から相手の思いや変化に気づくことで、対人関係や仕事を円滑に進めることができるのだと感じました。

「留学してよかった」10ヶ月の留学を終えて強く感じています。多くの人との出会いから学び、充実した留学生活を送ることができました。留学を通じて、人は一人では生きていけず、どんなときも誰かに支えられているものであると再認識しました。いつもあたたかく応援し、サポートしてくださった国際交流課の皆さま、先生方、家族、友人、支えてくださったすべての方々に感謝しています。